

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
Y I C看護福祉 専門学校		平成21年12月25日	伊藤 悦子		〒747－0802 山口県防府市中央町1番8号 (電話) 0835－26－1122	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人Y I C学院		平成9年1月28日	井本 浩二		〒754－0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083－976－8111	
目 的	看護師として必要な知識、技術を系統だてて教授するとともに、豊かな人間性を育み、社会に貢献できる看護実践者を育成する。					
分 野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士 の付与
医 療	医療専門 課程	看護学科	3年(昼)	3000単位時間 (又は単位)	文部科学省告示平成2 2年11月29日告示 153号	なし
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1. 755時間 (又は単位)	210時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1035時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数
240人		177人	14人		54人	68人
学期制度		■1学期： ■2学期：前・後期 ■3学期：		成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 100点満点 紙テスト・実技・実習	
長期休み		■夏 季：あり(4週間) ■冬 季：あり(2週間) ■学 年 末：あり(2週間)		卒業・進級条件	進級の条件 ・原則、学費を完納していること ・科目の3分の2以上の出席がある 卒業の条件 ・欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超えていないこと ・教育課程に定める必修の全科目の単位を修得し、全課程の修了が認定されていること	
生徒指導		■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 1～2か月1回電話によるやり取り		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動(有・無)	

就職等の状況	■主な就職先、業界 病院 ■就職率 100% ※1 ■卒業者に占める就職者の割合 96.8% ※2 (平成28年度卒業者に関する平成29年3月3日時点の情報)	主な資格・検定	看護師
中途退学の現状	■中途退学者 6名 ■中退率 3.3% 平成28年4月1日在学者 177名(平成28年4月入学者を含む) 平成29年3月31日在学者 171名(平成29年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学力不足・金銭的事由・罹患 ■中退防止のための取組 ・学力不足への対応：個別指導の実施により学習習慣を身に付けさせる。 ・金銭的事由への対応：各種奨学金制度などの紹介、学費などの分納の説明 ・罹患(精神疾患)への対応：面接により、必要と認められた場合は、クリニックを紹介し、治療の継続を促す。		
ホームページ	URL: http://www.yic.ac.jp/nw/		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いたものは含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

保護者、卒業生はもとより、看護教育に関連する実習場、看護協会、県の主管課、などの学校関係者などを、学校自らが専任し、編成した教育課程編成委員会で各方面からの意見を聴取し、編成作業に反映する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
吉村 喜代子	山口県看護協会
河本 由美	山口県介護福祉士会
山本 亜沙美	Y I C看護福祉専門学校同窓会
楫野 由美子	医療法人和同会 片倉病院
山根 昭昶	特別養護老人ホーム やすらぎ苑
落合 教子	Y I C看護福祉専門学校
伊藤 悦子	Y I C看護福祉専門学校
野崎 美紀	Y I C看護福祉専門学校
日當 泰浩	Y I C看護福祉専門学校
吉武 理恵	Y I C看護福祉専門学校
有本 徹哉	Y I C看護福祉専門学校
田中 恵美子	Y I C看護福祉専門学校
河村 晶子	Y I C看護福祉専門学校
福本 智子	Y I C看護福祉専門学校

(開催日時)

第1回 平成28年11月15日 14:00～15:00

第2回 平成29年 2月21日 15:10～16:10

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

教育現場と臨地との情報交換を密にし、学生の実習目標に到達させるため、教育内容や指導方法について相互に意見を交換し、質の高い教育を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
基礎看護学実習	入院している患者の生活環境を知るとともに対象を統合的に理解し、看護を展開する基礎的能力を養う。	山口リハビリテーション病院、周南リハビリテーション病院
老年看護学実習	健康障害を持ち、治療過程にある高齢者や老人保健施設で生活する要介護高齢者を統合的に理解し、対象特性に応じた看護の展開を学ぶ。	山口リハビリテーション病院、山口幸楽苑
成人看護学実習	回復、慢性期、周手術期にある対象を理解し、健康上の課題を解決するための看護展開の基礎を学ぶ。	山口リハビリテーション病院、周南リハビリテーション病院、セントヒル病院、光市立光総合病院
小児看護学実習	小児期を対象を理解し、成長発達及び健康レベルに応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。	鼓ヶ浦こども医療福祉センター、西佐波保育園ほか
母性看護学実習	妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象を理解し、対象の健康の保持増進に必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。	山陽小野田市民病院

精神看護学実習	精神に障害を持つ対象への理解を深め、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。	片倉病院ほか
在宅看護論実習	地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅ニーズに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。	訪問看護ステーションほうふほか
統合実習	医療チームの一員として看護実践を行うために必要な状況判断力、チームにおける調整力、看護技術力を養う。	山口リハビリテーション病院、光市立総合病院、周南リハビリテーション病院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

学校の理念や教育方針等に沿って、教員の指導力や各分野における最新の知識等を習得するため、学校評価等の結果を踏まえた研修を実施する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
吉村 喜代子	山口県看護協会
河本 由美	日本介護福祉士会
吉松 茂	野田学園高等学校
楫野 由美子	医療法人和同会片倉病院
山根 昭昶	特別養護老人ホーム やすらぎ苑
末富 庸子	Y I C看護福祉専門学校 保護者
落合 教子	Y I C看護福祉専門学校
伊藤 悦子	Y I C看護福祉専門学校
野崎 美紀	Y I C看護福祉専門学校
日當 泰浩	Y I C看護福祉専門学校
吉武 理恵	Y I C看護福祉専門学校
有本 徹哉	Y I C看護福祉専門学校

(開催日時)

第1回 平成28年 5月25日 10:30~11:30

第2回 平成29年 2月21日 14:00~15:00

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.yic.ac.jp/nw/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.yic.ac.jp/nw/>

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技
○			生物学	人間は生命現象を営む細胞からなる構造体であること。すべての生物は自己の生命と種を継続させる特性を持っていることを学ぶ。また、生態系における人間の健康と生活は自然環境と相互に影響しあい変化することを学ぶとともに地球環境での視点を育てる	1・前	30	1	○		
○			文化人類学	異なる文化を理解することで自分自身について理解を深める。人の行動はそれぞれの文化における規範の影響を受けており、異なる生活習慣や健康観を持つ人をどのように理解し、自ら考え方や行動を変化させるべきかについて考える	3・後	30	1	○		
○			情報科学	看護過程において高度な情報処理能力が要求されることから、情報科学の基礎及び看護と情報科学の関連について学ぶ。また、看護とコンピュータのかかわりと利用方法について学びその基本技術を学ぶ	1・前	30	1	○	○	
○			人間関係論	看護実践において必要となる人間関係のダイナミズムを理解する。また、目的に応じた役割関係を展開する人間関係形成能力を養う	1・前	45	2	○		
○			社会学	社会学一般の基礎的な理論や方法。及び健康・病気と保健医療の社会学の理論と方法について学ぶ。また、現代社会と保健医療界における様々な問題や動向に注目し、健康と社会とのかかわりについて考える。これらの学習を通して豊かな看護の実践につながる力を養う。	2・後	30	1	○		
○			教育原理	教育に関する基礎知識の習得を図り、患者や家族に対して教育的なかわりを実践できる能力を高める	3・後	30	1	○		
○			文学	看護者として看護を実践するために文学を通して自らの生き方を問い直すとともに、医療保険福祉分野で活動した人々・詩人を通して作品から豊かな感性を磨くとともに創造性表現力を学ぶ	1・前	15	1	○		

○		英会話	臨床で活用できる実用英会話を習得し、国際意識を高めるとともに国際社会に対応しうるコミュニケーション能力を養う	1・前	30	1	○		
○		音楽	健やかな精神と身体をバランスよく形成し、自己の情緒の安定を保つ力と歓声を磨き看護と音楽の関連を学ぶ	3・後	15	1	○		
○		体育	真の健康とは「身体的健康」「精神的健康」「社会的健康」の3つの要素が密接に影響し合って、健康がといえる。そのことにより社会の中で自立し、自信をバランスよく形成するとともに自己の健康管理能力を高める	1・後	15	1	○		○
○		心理学	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、看護実践の場においてより良い人間関係を模索する能力を養成する	1・前	30	1	○		
○		行動科学	人間の行動の成立と変化のメカニズムについて理解し、看護場面においてより良い人間関係を成立発展するための基礎的能力を養う	1・後	30	1	○		
○		解剖生理学Ⅰ (体の支持と運動・栄養の消化と吸収)	人体の構造・機能「体の支持と運動、栄養の吸収と消化」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。	1・前	30	1	○		
○		解剖生理学Ⅱ (呼吸と血液の循環)	人体の構造・機能「呼吸と血液の循環」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。	1・前	30	1	○		
○		解剖生理学Ⅲ (体液・内臓機能の調節、生殖・発生と老化)	人体の構造・機能「体液・内臓機能の調節、生殖と発生」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。	1・前	30	1	○		
○		解剖生理学Ⅳ (情報の受容と処理・外部環境からの防御)	人体の構造・機能「情報の受容と処理・外部環境からの防御」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。	1・後	30	1	○		
○		生化学	人体の構成成分である化学物質の性状やその分布及び代謝について理解する	1・前	30	1	○		
○		栄養学	人間にとって栄養の意義と健康な生活を営むための適正な栄養、食事のとり方について理解する。臨床での特別食調理の実際と食することにより患者の食に対する欲求を知る	1・後	30	1	○		○
○		病理学	人体組織における病的状態の原因・発生病所を理解する	1・前	30	1	○		

○		病態論Ⅰ (呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患)	呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患における主な疾病の原因、病態、検査、治療について学ぶ	1・後	30	1	○		
○		病態論Ⅱ (消化器疾患、腎・泌尿器疾患、免疫・アレルギー疾患、外科総論・各論)	消化器疾患、腎・泌尿器疾患、免疫・アレルギー疾患における主な疾病の原因、病態、検査、治療について理解するとともに、外科的治療の基礎について学ぶ	1・後	30	1	○		
○		病態論Ⅲ (脳・神経、運動器、内分泌・代謝疾患疾患)	脳・神経、運動器、内分泌・代謝疾患疾患における主な疾病の原因、病態、症状、検査、治療について学ぶ	1・後	30	1	○		
○		病態論Ⅳ (小児疾患)	小児期における主な疾病の原因・病態・症状・検査・治療について理解する	2・前	15	1	○		
○		病態論Ⅴ (女性生殖器疾患、妊娠・分娩・新政治・産褥)	女性生殖器、妊娠・分娩・新生児・産褥における主な疾病や以上の原因・病態・症状・検査・治療について理解する	2・前	15	1	○		
○		病態論Ⅵ (精神疾患)	精神医学・医療の最新の基礎知識を学び、主な精神疾患、症状、検査、治療について学ぶ	2・前	15	1	○		
○		微生物学	微生物についての基礎知識、感染と発病、感染の予防と治療について学び、生体に及ぼす影響とその対応方法を学ぶ	1・後	30	1	○		
○		医療放射線学	放射線を用いた検査と放射線治療の適応と有効性、人体に及ぼす影響について学ぶ	2・前	15	1	○		
○		臨床薬理	薬物について基礎的知識を理解し、薬物の特徴、作用機序、人体への影響について理解する	2・前	30	1	○		
○		保健医療論	人間の生命に対する基本的理念や患者の人権及び医療人としての倫理を学び、人と医療の関係を理解する	2・後	15	1	○		
○		公衆衛生学	社会における組織的な保健活動について学び、人々の健康と生活環境の関連を理解する	2・前	30	1	○		
○		社会福祉Ⅰ (社会保障制度)	社会保障の概念や対象、我が国の社会保障制度の体系とその具体的な内容、関連する施策について学ぶ	2・前	30	1	○		

○		社会福祉Ⅱ (社会福祉の法体系と制度)	国民生活の実態とそれに対応する社会福祉制度と機能、社会福祉実践の方法について理解を深める	3・後	15	1	○		
○		保健統計	統計学・保険統計学の標準的技法を理解し、保健統計の正しい読み取り方、まとめ方を学ぶ	1・前	15	1	○		
○		看護関連法令	保健・医療・福祉に関する諸法規の概要を学び、看護師としての責任と義務を理解する	3・後	15	1	○		
○		看護学概論	看護の概念を捉え、看護の位置づけと役割を理解する	1・前	30	1	○		
○		臨床看護倫理	臨床における倫理原則、・行為との構造と倫理、意思決定のプロセスを理解し、実際の臨床で発生する様々な倫理的場面に対応する基礎的能力を身に付ける	1・前	15	1	○		
○		看護過程Ⅰ (看護理論・看護過程)	看護理論の構造や特徴を理解し、看護を実践するための基本的考え方を学ぶ	1・前	30	1	○		
○		看護過程Ⅱ (看護過程演習)	対象の健康上の課題を解決するための看護の展開方法を学ぶ	1・後	30	1		○	
○		共通基本看護技術 (ボディメカニックス、コミュニケーション)	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を習得する	1・前	30	1	○		
○		フィジカルアセスメント	対象の身体状態を把握するために必要な観察・測定・面接技術について学ぶ	1・前	30	1	○	○	
○		日常生活援助技術Ⅰ (環境・活動・休息の援助)	対象の基本的欲求を捉え、安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を習得する	1・前	30	1	○	○	
○		日常生活援助技術Ⅱ (食の援助・排泄)	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を習得する	1・後	30	1	○	○	
○		日常生活援助技術Ⅲ (清潔・死亡時の援助)	安全・安楽かつ自立的な日常生活援助技術の基礎を習得する	1・後	30	1	○	○	
○		診療補助技術	診療に伴う援助技術を安全・安楽に実施するための基礎を習得する	2・前	45	2	○	○	

○		基礎看護学実習Ⅰ (生活環境・コミュニケーション)	入院している患者の生活環境を知るとともに、対象を理解するための視点及び看護の実際を学ぶ	1・後	45	1			○
○		基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	対象を統合的に理解し、看護を展開する基礎的能力を養う	2・前	90	2			○
○		成人看護学概論	成人期にある人の特徴と成人期看護の目的・役割を理解する	1・後	30	1	○		
○		成人看護学方法論Ⅰ (急性期・周手術期看護)	生命の危機状態にある成人・家族及び手術を受ける成人・家族に対する生命維持、苦痛の緩和、早期回復へ向けた看護を理解する	2・前	45	2	○		
○		成人看護学Ⅱ (回復期看護)	健康障害から回復過程にある成人やその家族に対する慢性化予防、生活行動の再獲得、社会復帰を目指した看護を理解する	2・後	30	1	○		
○		成人看護学Ⅲ (慢性期看護)	慢性の経過をたどる成人・家族への症状看護、及びヘルスケアへの看護、再発予防のための看護を理解する	2・後	30	1	○		
○		成人看護学Ⅳ (がん看護・ターミナル期看護)	がん治療を受ける成人・家族の特徴及び看護の方法を理解する。ターミナル期にある成人・家族の特徴を理解し、身体的・心理的苦痛の緩和に向けた看護を理解する	3・前	15	1	○		
○		成人看護学演習	成人期の健康障害を持つ対象を全人的にとらえ必要な看護を行うための看護技術を習得する	2・前	30	1		○	
○		老年看護学概論	高齢者の特徴を理解し、生活と健康課題を統合しながら老人保健の動向、健康の維持増進、疾病の予防、あわせて高齢者を取り巻く家族や地域の支援システムについて学ぶ	1・後	30	1	○		
○		老年看護学方法論Ⅰ (健康レベルに応じた看護)	高齢者の健康障害の特徴と生命や生活への影響を理解し、その人らしい生き方ができるように家族を含めた看護を学ぶ	2・前	30	1	○		
○		老年看護学方法論Ⅱ (要介護高齢者の看護)	認知症及び身体可動性障害に焦点を当て、生活機能の観点から老年期にある対象への看護を学ぶ	2・後	30	1	○		
○		老年看護学演習	健康障害のある高齢者に対して看護を実践するために、事例を通して臨床現場を想定した看護展開と看護技術を学ぶ	2・後	15	1		○	
○		小児看護学概論	小児各期の成長・発達の特徴と、小児家族を取り巻く社会の変化を理解し、小児看護の課題を明らかにする。健康な小児の成長発達を理解し発達を促進するための援助方法を学ぶ	2・前	30	1	○		

○		小児看護学方法論Ⅰ (健康を傷害された小児、急性期にある小児の看護)	小児期の主な健康障害と健康問題が小児や家族に及ぼす影響を理解し、小児看護に必要な基本的姿勢の方法や技術を学ぶ。小児の急性期症状を呈する代表的疾患と看護を学ぶ	2・前	30	1	○		
○		小児看護学方法論Ⅱ (慢性期・終末期・手術を受ける小児・障害のある小児への看護)	慢性期・慢性期・手術を受ける小児、障害のある小児と看護への支援の方法を学ぶ	2・後	30	1	○		
○		小児看護学演習	演習を通して健康障害を持つ小児を全人的に理解し、看護援助が実践できる技術を習得する。	2・後	15	1		○	
○		母性看護学概論	母性の特性を理解し、母子及びその家族の健康の維持増進、疾病の予防のための看護を学ぶ	2・前	15	1	○		
○		母性看護学方法論Ⅰ (周産期看護)	妊娠・分娩・産褥各期および新生児期における母子の特徴を理解し、生理的変化が順調を経過するための看護を学ぶ	2・前	30	1	○		
○		母性看護学方法論Ⅱ (周産期ハイリスク看護)	周産期に起こりやすい健康障害を理解し、健全な母性の遂行のための看護を学ぶ	3・前	30	1	○		
○		母性看護学演習	周産期の母性に必要な看護技術を習得し、対象に応じた看護を展開する方法を学ぶ	2・後	15	1		○	
○		精神看護学概論	精神看護学の位置づけと目的及び精神看護の対象を学ぶ	1・後	15	1	○		
○		精神看護学方法論Ⅰ	精神に障害を持つ対象の疾患、症状、問題の特徴及び治療法を理解し、看護に必要な援助方法を学ぶ	2・前	30	1	○		
○		精神看護学方法論Ⅱ	心の健康を保持・増進するための援助方法と精神保健・福祉・医療における看護師の機能と役割を学ぶ	2・後	30	1	○		
○		精神看護学演習	精神に障害を持つ対象と治療的人間関係を構築し、看護を実践するための方法を学ぶ	2・後	15	1		○	
○		成人看護学実習Ⅰ (看護過程)	対象を理解し、健康上の課題を解決するための看護展開の基礎を学ぶ	2・前	90	2			○

○		成人看護学実習Ⅱ (回復期・慢性期)	回復及び慢性期にある成人期の対象を統合的に理解し、 その特徴を踏まえ看護が実践できる基礎的能力を養う	2 ・ 後	90	2			○
○		成人看護学実習Ⅲ (周手術期)	周手術期にある対象の健康上の課題を統合的に理解し、 生命維持、症状悪化防止、回復を促す基礎的能力を養う	3 ・ 前	90	2			○
○		老人看護学実習Ⅰ (健康障害のある高齢 者の看護)	健康障害を持ち治療過程にある高齢者を理解し、対象特 性に応じた看護の展開を学ぶ	2 ・ 後	90	2			○
○		老年看護学実習Ⅱ (要介護高齢者の看 護)	老人保健施設で生活する要介護高齢者を統合的に理解 し、生活の質を考慮した健康援助を学ぶ	3 ・ 前	90	2			○
○		小児看護学実習	小児期にある対象を理解し、成長発達及び健康レベルに 応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する	3 ・ 前	90	2			○
○		母性看護学実習	妊娠・分娩・産褥各期および新生児期にある対象を理解 し、対象の健康の保持増進に必要な看護が実践できる基 礎的能力を養う	3 ・ 前	90	2			○
○		精神看護学実習	精神に障害を持つ対象への理解を深め、対象に応じた看 護を実践するための基礎的能力を養う	3 ・ 後	90	2			○
○		在宅看護論概論	傷病・障害を持ちながら地域で療養・生活する人とその 家族の特性を知り、歴史の中で育まれた在宅看護の現状 と展望を踏まえて、看護職として果たすべき役割理解す る	2 ・ 前	15	1	○		
○		在宅看護方法論Ⅰ (在宅ケアを支える看 護)	在宅ケアの特徴及び在宅ケアにおける連携・マネジメン トについて学ぶ	2 ・ 前	30	1	○		
○		在宅看護方法論Ⅱ (状態別在宅看護)	在宅でみられることの多い特徴的な事例を用い、在宅で の状態に応じた看護を学習する	2 ・ 後	30	1	○		
○		在宅看護論演習	在宅看護論で学んだ知識を生かし、地域に暮らす在宅療 養者とその家族に対する具体的な看護技術・態度を習得 する	2 ・ 後	30	1		○	
○		看護の統合と実践Ⅰ (看護管理)	看護管理の基本的知識を学び、他職種と共同する中で、 看護師としてのメンバーシップ・マネジメントに必要な 知識と技術を学ぶ	3 ・ 後	15	1	○		
○		看護の統合と実践Ⅱー 1 (看護研究の基礎)	看護研究の意義と文献検索および活用方法を理解し、看 護研究の基礎を学ぶ	2 ・ 後	15	1	○		

○			看護の統合と実践Ⅱ－ 2（事例研究）	看護研究の基礎で学習した学びをもとに看護研究を行い、日々の看護実践を科学的に捉える力や、問題意識を持って看護を探究する態度を養う	3・前	30	1		○	
○			看護の統合と実践Ⅲ （医療安全・災害看護・国際看護）	医療安全及び医療事故防止対策を学び、医療安全に対する知識や態度を養う。 災害直後から支援できる災害看護の基礎的知識を学び、看護者の役割を学ぶ 国際社会における様々な健康課題を理解し、国際的な看護活動について考えることができる	3・前	30	1	○		
○			統合技術演習	事例を通して緊急・突発の要件下での状況判断力と対応力を養う	3・前	30	1		○	
○			在宅看護論実習	地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅ニーズに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う	3・後	90	2			○
○			統合実習	医療チームの一員として看護実践を行うために必要な状況判断力、チームにおける調整力、看護技術力を養う	3・後	90	2			○
合計				87科目	3000単位時間（101単位）					